

下北「核」半島地域スタディ・ツアー趣旨書

原発体制を問うキリスト者ネットワーク（Christian Network for Nuke-Free Earth、以下 CNFE）のプロジェクトチームは、青森県の下北半島に建設された使用済み核燃料再処理施設及び原発関連施設を見学し、原発体制の核心である、核燃料サイクルの実態を直接見ながら、現地の人たち、他の原発基地のある地域や韓国からの参加者と交流を深め、これから脱原発に向かって何ができるのかを話し合う場として、下北「核」半島地域スタディ・ツアーを計画いたしました。

★日程：6月5日（火）～9日（土）

★訪問場所：六ヶ所村 核燃料関連複合施設、東通原発、大間原発、函館

★費用：5万円を切る、格安のツアーを実現いたしました（先着45名に限定）

CNFE について

私たち「原発体制を問うキリスト者ネットワーク」（CNFE）は、「私たちの基本的見解」^{（別紙）}を掲げ、3・11以降、「歴史の曲がり角に立った」という預言者的認識の下で人種、国籍、キリスト教教派を問わず、「原発の深い闇からの解放に向けて」、1 「あらゆる連帯を生きる」こと、2 「すべての原発の即時停止と廃絶」、3 海外との連携、4 「国内グループとの」提携 を求める組織です。

CNFE がやってきたこと

- ・私たちは日本キリスト教協議会（NCC）の支援を受け昨年10月、韓国・モンゴルを訪問し、国際連帯による脱原発に向けた働きをすることを確認しました。
- ・今年の1月、横浜で開かれた「脱原発世界会議」に参加し、二つのシンポジウムを企画し、国際連帯の重要性と、原発のある地域の置かれている厳しい状況を知り各地域の連帯の必要性を痛感しました。

★今回の企画は、ポスト「横浜会議」として多くの方々のご支援で実現されました。今年の5月に一旦すべての原発が停止された後、今後どのような活動をすべきか、どのような国際連帯の活動が可能か、このような問題意識を持つ方のご参加をお待ちしております。

CNFE 下北プロジェクト責任者 八木沼豊

CNFE 共同代表 崔 勝久

日本キリスト教団川崎教会付

E-mail：yutaka@sc.dcms.ne.jp 連絡先：090-4067-9352(チェ)

はじめに

2011年3月11日、東京電力福島第一原子力発電所で発生した原発過酷事故は、9カ月を経た今なお収束に向かう兆しは見られず、全地球規模の汚染を引き起こしています。

3・11以後の歴史の曲がり角に立って私たちは、ここに至るまで「原発体制」を許してきてしまった自らの責任を問いつつ、回心を込めて、この見解を発表します。

原発体制の闢

核分裂過程で放出される膨大なエネルギーを取り出す原子力発電は、生命の尊厳と対極にある「核技術」です。人類の叡智の及ぶ領域をはるかに超えて危険な存在です。

戦後冷戦下における「核の平和利用」キャンペーンを発端に、原発体制の構築に乗り出した世界の権力者と原子力産業界は、ウラン採掘から原子力発電、核燃料の再処理、核兵器製造にいたる核燃料サイクルの全過程で莫大な利益を手中に収めることに成功しました。その結果、引き起こした環境破壊やあらゆる悲惨な犠牲をも省みることなく、依然として原発体制の維持・推進を目論んでいます。

日本政府もまた、「エネルギー確保のために原子力の平和利用は不可欠」という大義名分を掲げた国策を立案し、「原発は地域振興に寄与する」「核燃料はリサイクルできる」「原子力は安い電力を供給する」「原発はCO₂を排出しないクリーンエネルギー」「日本の原子力技術は優秀」「原発は安全」といった根拠のない原子力神話をまき散らし、政官財界・学界・マスコミが一体となって原発を、世界有数の地震多発地帯である日本列島の上に建て並べてきました。

その結果として2011年3月11日に起こった福島第一原発事故は、地震に脆弱な原発と、原発体制が内包するあらゆる問題を一気に世界中に知らしめることになったのです。

福島の事故がまき散らした放射性物質（死の灰）は、チェルノブイリ原発事故が放出し、全地球汚染を引き起こした死の灰の総量に匹敵すると見られ、メルトダウンした炉心と使用済み核燃料からは、いまなお放射性物質が環境中に拡散し続いています。高濃度に汚染された地域では、100万人を超える人々が生命の危機と隣り合わせの暮らしを強いられています。死の灰は人間の力で無毒化することも、安全に処分することもできない危険物で、100万年にもわたって地球の生命環境を脅かし続けていくこととなります。

そもそも原発が日常的に生み出す核分裂生成物（死の灰）の量は、100万kW級の原発一基が一日操業する度に広島原爆4発分に相当し、これまでに、54基の日本の原発が生み出した死の灰の総量は、広島原爆120万発分にも達して増え続けています。加えて、世界一高いと言われる電気料金と、国民の税金を財源とする日本の原子力政策は、過酷な被曝労働を担ってきた原発労働者を使い捨て、原発立地地域の住民、農業・漁業従事者の暮らし、地域社会の崩壊という犠牲を踏み台にして行われてきました。

にもかかわらず、かつ、事故の収束すら目途が立ち得ない中で、日本政府と原子力産業界は、「放射能のレベルは安全である」「事故の収束は可能である」「日本の技術は、依然優れている」として、原発の存続と他国への輸出、放射性廃棄物の他国での廃棄政策を狙い続けています。

原発の深い闇からの解放に向けて

1. キリスト者として

私たちキリスト者は日本社会の中では少数者ですが、この暗闇の原発体制に抵抗し、原発社会からの生きとし生けるものの解放のために、虐げられた生命に寄り添って解放の福音をもたらされたイエスとともに、あらゆる連帯を生きしていきたいと願っています。

2. 原子力の廃絶

私たちは、日本国内におけるすべての原発の即時停止と廃絶、六ヶ所再処理工場（青森県六ヶ所村）、及び高速増殖炉もんじゅ（福井県敦賀市）など、核燃料サイクル施設の稼働中止と核燃料サイクル計画からの即時撤退を求めます。また、再生可能エネルギー、自然エネルギーの開発推進に賛同します。

3. 海外との関連

私たちは、海外への原発輸出と、使用済み核燃料と放射性廃物の海外処分計画の即時中止を要求します。そのために、特に隣国の韓国・台湾・ヴェトナム・モンゴル・中国・インド・フィリピン・インドネシアなどにおける抵抗運動と連帯して活動し、さらにその輪を広げていきます。

4. 国内のグループとの関連

私たちは3・11以後、ネットワークを立ち上げたグループです。すでに日本国内で原発廃止と輸出反対に長年取り組んでこられた多くの方々やグループから学びつつ、この重要な歴史の局面を見据え、原子力の時代にピリオドを打つために、共に全力をつくして歩んでいきたいと願っています。

*なお、私たちのネットワークに参加されるにあたっては、教団・教派・組織、及びその代表者とは関係なく、

あくまでも個人の意思において参加することを前提とします。参加者の国籍は問いません。

*また、この見解は、絶えず皆様のご意見を伺いつつ、加筆修正していきます。

☆☆ 脱原発のために ☆☆

下北 核 半島



主催: CNFE 下北プロジェクト

スタディツアー

右の地図ですぐにお分かりのように、下北半島全体が政府・経済産業省がすすめている核燃料サイクル政策の基地とされています。

中でも使用済み核燃料再処理工場は全国の原発の使用済み核燃料からまだ使えるウランと、燃焼によって生成したプルトニウムを取り出そうという化学工場です。この工場が稼働すると、常時、海や大気中に放射性物質が放出され、周辺の地域、海域が放射能汚染され、その汚染はやがて果てしなく広がっていくことになります。また、再処理工場で取り出されるプルトニウムは猛毒物質であり、爆発的に核反応が進む物質で、核兵器の原材料としても使われます。

なぜ自然豊かな下北にこのような施設が多く設置されるのか、そして核廃棄物とその処理の問題点について、現地視察をしながら学ぶことは大変意義の深いことと思います。

このスタディツアーに、みなさまのご参加をお待ちしています！



ツアーの概要

参加費用 ¥50,000- / お一人様

(申込み時に全額をお払ください)

* 本来はお一人様 ¥70,000- が必要でしたが、篤志家からの援助により¥50,000- としました。

宿泊・食事 ツアーの全行程で、宿泊・食事つき (飲み物は含まれません)

集合日時 2012年6月5日(火) 夜9:00

集合場所 東京駅八重洲南口バスのりば

☆ 青森県三沢からも、ご参加になれます ☆

青い森鉄道「三沢駅」に6月6日(水)朝9:15 集合

* 三沢からの場合、参加費用は¥45,000- / お一人様です。



お申込みは、CNFE(原発体制を問うキリスト者ネットワーク)のホームページから！

* 受付締切りは、4月末日です。お問い合わせは、メールでお願いします。yutaka@sc.dcms.ne.jp

<http://wwwb.dcms.ne.jp/~yaginuma/index.html>

(「原発体制」で検索できます)

下北核半島スタディツアー

旅程

(交通事情などにより、変更の可能性がございます)



2012年6月5日(火)

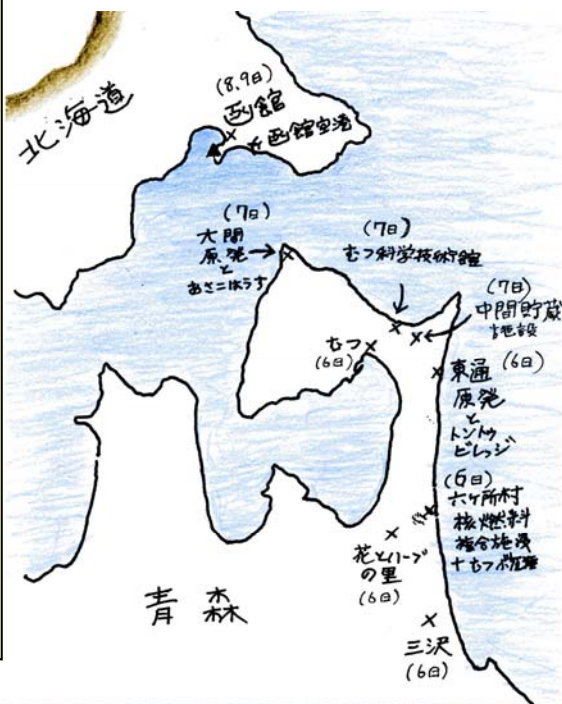
夜 9:00 東京駅八重洲口バス乗り場 集合
 9:30 東京駅出発 (バス内で1泊)

6月9日(土)

旅館で朝食
 昼 11:00 - 3:00
 反原発函館集會に参加
 (昼食は弁当支給)

<東京に戻る皆様>
 午後 3:30 函館出発、
 函館空港へ
 4:35 発 AIRD046 便
 6:00 羽田空港到着

<韓国に戻る皆様>
 6月10日(日)
 函館の教会で礼拝
 11:30 ごろ 路線バスで
 函館空港へ
 1:25 発 KE774 便
 4:15 仁川空港到着



6月6日(水)

朝 8:00 頃 青森県三沢到着
 温泉入浴、朝食
 9:30 三沢市公会堂にて、
 「核燃サイクル阻止 1 万
 人訴訟原告団」の山田清
 彦事務局の講演会
 11:30 三沢出発(貸切バス)
 むつ小川原港 経由
 「花とハーブの里」
 六ヶ所村 経由
 東通原発 PR センター(トントウ
 ビレッジ)を見学
 夕 6:00 頃 むつ市の旅館到着
 夕食(懇親会)
 日本基督教団奥羽教区代表 白
 戸牧師、韓国 NCC 代表より挨拶

6月8日(金)

朝 7:10 大間港出発(船)
 8:50 函館港到着
 貸切バスで函館市内見学
 レストランで昼食
 午後 北海道の反原発グループ
 などと情報交換
 夕方 函館・湯の川温泉啄木亭に
 夕食後 大間原告団などと交流会
 さよならパーティー
 * 希望者は、函館山夜景ツアー

6月7日(木)

旅館で朝食
 朝 旅館を出発(貸切バス)
 むつ科学技術館見学(40分)
 むつ市で、使用済み核燃料中間貯蔵施設予定地など見学
 田名部教会の野坂庸子氏によるレクチャーもあり
 (途中で昼食「大間マグロのお寿司」)
 午後 大間崎へ
 夕方 「あさこはうす」で交流会、桜の苗木の植樹
 おおまの宿へ ... 夕食、宿泊
 夕食後 勉強会(講師: 岩田牧師)